学校法人 青山学院

2015年度 事業計画書

Aoyama Gakuin since 1874

目次

はじめに …… 2
AOYAMA VISION 構成図 …… 3

学院および各設置学校の事業計画
Ⅰ．サーバント・リーダーの育成 …… 4
青山学院の目指すサーバント・リーダー …… 4
1．キリスト教教育の充実 …… 4

Ⅱ．ヴィジョン達成のための 3 つのテーマと 7 つのアクション …… 5
1．7 つのアクション …… 5
ACTION 1　サービス・ラーニング …… 5
ACTION 2　SEED+青山グローバルスタンダード …… 6
ACTION 3　5 大陸をつなげる国際教育 …… 6
ACTION 4　キャリア教育･海外インターンシップ …… 8
ACTION 5　Aoyama Global Passport System（AGPS） …… 10
ACTION 6　IAMSCU リサーチ大学コンソーシアム …… 10
ACTION 7　総合大学院と独創的な研究拠点構築 …… 10
2．その他のアクション …… 11
（1）教育力の向上 …… 11
（2）スチューデント支援 …… 12

Ⅲ．青山学院グローバルアカデミックタウン …… 12
1．地域・社会との連携 …… 12
2．各設置学校等の連携 …… 13

Ⅳ．学院を支える基盤整備 …… 13
1．キャンパス再開発 …… 13
2．財政基盤の強化 …… 14
3．組織・運営体制の充実 …… 15
4．内部質保証 …… 16

Ⅴ．その他 …… 16

はじめに

青山学院は、昨年（2014 年）11 月 16 日、創立 140 周年を迎えました。この周年を青山学院では、1874 年に米国のメソジスト監督教会の宣教師たちにより「世界の中の日本の学校」として開設されて以来の歴史と伝統を振り返る重要な節目としてのみならず、150 周年に向けての新たな一歩を踏み出すための起点と位置づけ、「AOYAMA VISION」を策定しました。2015 年度は、その実現に向け優先順位の高いものから事業計画に移行し、実質的な取り組みを始める最初の年となります。

青山学院は、幼稚園から大学・大学院までを擁する総合学園として、キリスト教信仰にもとづく一貫教育を行ってまいりました。このほど策定した AOYAMA VISION では、その教育の特色を更なる強みとして発展させていく全学院的将来像＝ヴィジョンを、「すべての人と社会のために未来を拓くサーバント・リーダーを育成する総合学園」と定義しています。同時に、その達成のために学院を貫く 3 つのテーマと 7 つのアクションを掲げ、学びと研究のベースとなる青山学院グローバルアカデミックタウンの創造及び、学院を支える基盤整備を加えてヴィジョンの具体的な施策を示しています。

AOYAMA VISION は、社会の根底で他者を支え、導き、周りを照らす光となるサーバント・リーダーを、スクール・モットー「地の塩、世の光」の体現者として世に送り出す総合学園であり続けるという、青山学院の約束であり宣言です。

2015 年度事業計画書は、青山学院が教育機関としての使命を果たし、AOYAMA VISION を実現していくために、各学校や各部署が策定した事業計画の概要を記したものです。

青山学院は、今後 10 年にわたる AOYAMA VISION 実現への取り組みをとおし、世界へ羽ばたく若きサーバント・リーダーを着実に育成し社会に送り出すことによって、歴史と伝統の中で培われてきた「青山らしさ」を次の世代へとつないでまいります。

AOYAMA VISION

MISSION

建学の精神

青山学院の教育は、
永久にキリスト教の信仰にもとづいて、
行われる。

教育方針

青山学院の教育は
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、
神の前に真実に生き
真理を謙虚に追求し
愛と奉仕の精神をもって
すべての人と社会とに対する責任を
進んで果たす人間の形成を目的とする。

スクール・モットー

地の塩、世の光

VISION 2014-2024

すべての人と社会のために
未来を拓くサーバント・リーダーを
育成する総合学園

今、世界が必要としているのは、自分の使命を見出して進んで人と社会とに仕え、
その生き方が導きとなる人、サーバント・リーダーです。

青山学院が育むサーバント・リーダーは

- リベラルアーツ・深い専門知識
- 他者を敬い違いを受け入れる心
- 人と社会に仕える行い
- Sincerity Simplicity

を兼ね備えた人、すなわち「地の塩、世の光」を体現する人物です。

ACTION

AOYAMA VISION 達成のための 3つのテーマ 7つのアクション

オール青山による個に応じた成長支援

- ACTION 1 サービス・ラーニング
- ACTION 2 SEED+ 青山グローバルスタンダード

世界と地域に開かれた学院

- ACTION 3 5大陸をつなげる国際教育
- ACTION 4 キャリア教育・海外インターンシップ
- ACTION 5 Aoyama Global Passport System

卓越した知を創造する研究共同体

- ACTION 6 IAMSCU リサーチ大学コンソーシアム
- ACTION 7 総合大学院と独創的な研究拠点構築

Ⅰ．サーバント・リーダーの育成

青山学院の目指すサーバント・リーダー

サーバント・リーダーは、一般的には耳慣れない言葉かもしれませんが、キリスト教信仰にもとづく教育を行う本学院にとっては、スクール・モットー「地の塩、世の光」につながる重要な概念です。サーバント “servant”は仕える者、リーダー“leader” は指導者で、一見この 2 つの言葉は矛盾するように感じられますが、聖書の中で、「人の子（私）がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるため」であると語り、弟子たちの足を洗うイエスこそサーバント・リーダーの代表と言えます。このことは、「あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、皆の僕(しもべ)になりなさい」というイエスの教えからもうかがうことができます。サーバント・リーダーとは、特別の環境における特別の指導者を意味するのではなく、すべての人が人生を通して目指すことのできる生き方そのものであり、その人の人格や価値観に深く根差したものと言えます。

青山学院のサーバント・リーダーは、「リベラルアーツと深い専門知識」、「他者を敬い違いを受け入れる心」、「人と社会に仕える行い」、そして、初の日本人院長である第二代院長 本多庸一が青山学院生の重要な要素とした「Sincerity & Simplicity」という、4 つの側面を兼ね備えることが特徴です。青山学院では、これらを養うため、授業での学びはもちろん、礼拝や聖書の学び、多様な学校行事や諸活動等を通して、園児・児童・生徒・学生のそれぞれが、多くの人と出会い、経験し、自ら考えることを大切にしています。

1. キリスト教教育の充実

サーバント・リーダー育成の土台となり、建学の精神の根幹をなすキリスト教教育実践のため、青山学院では「礼拝」「授業」「キリスト教活動」の 3 つの領域についてプログラムを実施し、一人ひとりが神に愛されているかけがえのない存在であることを学んでいます。2015 年度も各設置学校でのキリスト教教育を充実したものとするため、学院全体で様々な活動を推進していきます。

【学院】

・各設置学校で毎日行われる礼拝を大切にし、礼拝参加者の意欲の向上に努めます。

・礼拝説教者・奨励者の相互交流、各設置学校の礼拝における他部の宗教主任による説教、大学聖歌隊、大学ハンドベルクワイアや大学ゴスペルクワイアによる各部における礼拝での奉仕等、各部の垣根を超えた多様なプログラムを実施し、誰もが「チーム青山」の一員である自覚を促します。

・青山学院のキリスト教教育は、「皆のため、皆による、キリスト教教育」です。学院に集う園児、児童、生徒、学生、教職員のすべてが、様々な機会・立場でキリスト教教育に参加し、また参加できる環境を整えることで、学院全体のキャンパス・ミニストリーへの理解を深めていきます。

・保護者や教職員がキリスト教に触れ親しむ機会を増やし、建学の精神への理解につなげます。青山・相模原両キャンパスで実施している教職員を対象とした聖書に親しむ会の活性化や各設置学校で行われている保護者向けのプログラムの充実を図り、より多くの方に参加していただくよう努めます。

Ⅱ．ヴィジョン達成のための 3 つのテーマと 7 つのアクション

1．7 つのアクション

AOYAMA VISION 達成のためには、多くのアクション（取り組み）が必要です。「オール青山による個に応じた成長支援」「世界と地域に開かれた学院」「卓越した知を創造する研究共同体」という 3 つのテーマはその柱であり、7 つのアクションはその重点施策です。

ACTION 1　**サービス・ラーニング**

キリスト教信仰にもとづく教育を建学の精神とする本学院において、人と社会に貢献する行いの実践は創立以来の重要なテーマであり、現在も東日本大震災被災地への支援をはじめ、多様なボランティア活動が全学院的に行われています。

長い伝統を持つこうした「奉仕」活動を系統立てて「学習」に結びつけることにより、活動に参加した一人ひとりが批判的思考力と個人の社会的責任を育むメソッド、それがサービス・ラーニングです。教室で学んだ知識や技能を奉仕活動の中で活かし、その経験を教員等の指導のもとで振り返ることにより、教室だけでは得られない、学びと成長を実感できる人間教育へとつなげます。本学院では、今後核となるセンターを設立し、国際的にも幅広く採用されているサービス・ラーニングを全学院的に展開することで、青山学院ならではの教育を更に充実させていきます。

2015 年度の主な計画は、下記のとおりです。

(1) 全学院的なサービス・ラーニングセンター開設に向けての準備
(2) サービス・ラーニング活動を推進する大学のボランティアセンター設置に向けての準備
(3) サービス・ラーニングの実践

【大学】

・東京オリンピック・パラリンピックの支援

東京オリンピック・パラリンピックの成功に貢献するため、連携協定に従って、オリンピック講座の開講、オリンピアン・パラリンピアンによるスポーツ教室や講演会などの開催、支援活動への学生の積極的な参画、を行っていきます。計画の立案を含め、組織的な活動を体験することにより学習効果を高め、また、スポーツを通じて世界の様々な国や人々と理解を深め、人と痛みを分かち合えるグローバル人材への成長の一助とします。

・大規模災害の被災地支援をはじめとした国内外の貢献活動を継続します。

【女子短期大学】

2014 年 8 月に締結した宮古市との連携協力に関する協定書にもとづき、協力関係を構築します。具体的には、宮古市バスケットボール選手強化講習会への大学バスケットボール部選手の派遣、各学科・専攻科の特色を活かした宮古市内児童・生徒に対する教育支援活動、被災地支援ボランティア活動（第 9 回・第 10 回）等を実施する予定です。

【高等部】

2011 年度より実施している東日本大震災の被災地の学校との交流を継続します。

【中等部】

養護老人ホームの慰問やハンドベル部の奉仕を継続します。

【初等部】

滋賀県にある止場学園への短期留学、鎌倉薫風学園ラファエル会・日本聾話学校への訪問を継続し、交流を深めます。

ACTION 2　SEED+青山グローバルスタンダード

2008 年度より、青山学院では「英語の青山」の特色をより一層明確にする質の高い授業の実施と学校間の円滑な連携のため、初等部から高等部の 12 年間を発達段階に合わせ 4 年毎 3 期に分けた英語教育を実践しています。使用するテキスト『SEED』は学内の教員が執筆していますが、高等部 3 年生が 2015 年度から使用する BOOK12 については、大学の教員が unit 毎に専門領域のテキストを執筆し、入門レベルとは言え高度な内容が含まれ、単に英語を学ぶためだけでなく、高等部と大学の接続教育としても意味あるものとなりました。今後は『SEED』を大学教育に接続し、初等教育から高等教育までのシームレスな英語教育を実現していきます。

【大学】

青山学院大学独自の全学共通教育「青山スタンダード」を、世界を舞台に仕事をし、高い評価を受けられる人となることを目標に、次世代型の「青山グローバルスタンダード」に進化させる取り組みを行っていきます。

【高等部】

SEED の BOOK12 の使用開始に伴い、4-4-4 一貫制英語教育の成果の検証を行います。SEED を使い始めた学年別の TOEIC 得点結果や BOOK 12 に関する生徒及び担当教員によるアンケートの実施結果を分析し、高等部生の英語力向上につなげます。

【高等部・中等部・初等部】

中等部と初等部で毎年実施している英語の定着度を測る外部テストの分析結果と、2015 年度に高等部が実施する新たな検証結果をリンクすることで、今後の 4-4-4 一貫制英語教育をより充実させ、青山学院の英語教育の強化を図っていきます。

ACTION 3　５大陸をつなげる国際教育

青山学院の国際教育の始まりは、140 年前の米国のメソジスト監督教会の宣教師による創立に遡ります。本学院では、出身地や国籍、年齢や考え方、生活環境が異なる人同士が違いを超えて受け入れ合い、認め合えることこそ「国際化」であるとの考えに立ち、教育を行ってきました。世代を超え、国を超えて心をつなぎ、社会に貢献する「真の国際人」を生み育てるため、卓越した国際レベルの研究によって人類の希望となる次世代の知と世界をつなぐため、青山学院はキリスト教信仰にもとづく教育を行う総合学園としての特徴を活かし、これからも独創的国際教育を進めていきます。

【学院】

・IAMSCU*[1] と ACUCA *[2] を通してのキリスト教国際教育・研究の推進

世界中で 800 校を数える IAMSCU と ACUCA を通してキリスト教国際教育・研究を推進します。事務体制を整備して関係活動を強化し、キリスト教国際ネットワークを活かすことでグローバル教育・研究を発展させ、園児・児童・生徒・学生に対し、より充実したキリスト教教育を行います。

＊1）IAMSCU：International Association of Methodist Schools, Colleges, and Universities
（国際メソジスト関係学校・大学連盟）

＊2）ACUCA：The Association of Christian Universities and Colleges in Asia
（アジア・キリスト教大学協会）

・青山学院フィリピン訪問プログラムの実施

1994 年に初等部から始まり、現在では、中等部・高等部・大学が共に実施する総合学園である青山学院らしいプログラムです。幼稚園から大学の各設置学校で支援しているフィリピンの子どもたちを訪問し交流を深めており、現地を訪問するのが難しい幼稚園児たちが書いた手紙や絵を初等部生が代わりに届けるなど、各学校に合わせて国際交流のあり方と、「となり人」を覚えて生きることを学びます。

【大学】

現在 100 を超える学校と協定を結んでいますが、今後も提携する学校を増やし、学術・文化の交流を促進して教育・研究の充実を図るため、新たな取り組みにも着手します。

・グローバル・ポリシーの策定

青山学院創立以来のグローバル活動をより豊かなものとするために「グローバル化推進の方針(短期)」に加え、中・長期的な視野に立ち、大学が一体となってグローバル化に取り組める「グローバル・ポリシー」の策定に向け実質的な準備を行います。

・ASEAN 諸国との交流の拡充

EU に次ぐ地域協力機構として躍進を続ける ASEAN 諸国との協定、語学文化研修等を更に促進し、交流の一層の充実を図ります。

・語学習得と海外研修（グローバル対応科目）

グローバルな視点を備え、将来世界で活躍できる学生を育成するため、海外でのフィールドワークを拡充します。

・海外大学との交換研修におけるサマースクール用のコンテンツ開発

本学の立地を生かし、ファッション、メディア、アートなど幅広く日本の文化を講義とフィールドワークをとおして紹介します。授業は基本的に英語で行い、多様な受講生を受け入れることを目指します。

・ワーキンググループによる学期制具体化の検討

世界中から優秀な学生を留学生として受け入れ、また本学から外国の大学への留学を促進するため、グローバル化に向けたインフラの取り組みも進めています。

・「青山学院大学学生寮」の利用状況の検証と国際学生寮についての検討

多様な価値観を持つ日本全国・世界各地から集う学生たちが、共に学び生活すること

で相互理解を深め、コミュニケーション能力の涵養を可能とする国際学生寮は、本学のグローバル人材育成に重要です。現在ある学生寮の活用も視野に入れ、国際交流会館機能を加味した国際学生寮の検討を進めます。

【女子短期大学】

米国の 3 つの姉妹校との交流、夏期・春期休暇期間を利用しての短期留学等、語学習得だけでなく国際人として学ぶことのできる多様なプログラムを今年度も実施していきます。また、共生社会実習、キリスト教学実践で行っているアジア諸国へのスタディ・ツアー実習を充実発展させ、各国の NGO、大学等との交流を深めていきます。

【高等部】

海外提携校である英国のイートン校とリーススクール、イタリアのパスカル校の 3 校との交流を発展・充実させ、生徒及び学校同士の絆を深めます。

・リーススクールとの“World AIMS” *3 共同参画の実現

・海外提携校の生徒受入れの際の高等部生による「都内アテンドプログラム」実施

・リーススクールとの高等部の軽井沢追分寮での「イングリッシュキャンプ」実施

＊3）英国のメソジスト派学校における、世界の貧困や平和、人権等の問題に取り組むプロジェクト

【中等部】

毎年夏休みに実施しているオーストラリア・ホームステイ・プログラム、フィリピン訪問プログラムと隔年で行う梨花女子大学附属中学校との交流プログラム等をとおして、国際交流に取り組んでいます。2015 年度はオーストラリアホームステイと、フィリピン訪問プログラムを実施します。

【初等部】

毎年夏休みにはオーストラリア・ ヌッサーのグッドシェパード校とのホームステイプログラム、春休みにはフィリピン訪問プログラムを行っています。2015 年度も継続して国際交流プログラムを実施します。

【幼稚園】

神様やまわりの人々に愛される体験と、豊かな自然の中での遊びと祈りのうちに生活する日常の保育の中で、海外の文化や異言語に触れる経験を増やします。また英語に限らず海外の言語で書かれた絵本を増やし、異文化を背景に持つ方をお招きしてその国の踊りや絵本等を紹介していただく一方で、日本の伝統文化に触れ日本のことを知る経験も増やしていきます。こうした体験の積み重ねが、卒園後の学校で行われる国際教育や国際交流、「他者を敬い違いを受け入れる心」を育む基礎となります。

ACTION 4　キャリア教育・海外インターンシップ

キャリア教育は、近年「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能の育成」から「社会の中での個人の役割を見出す」という、より幅広い能力の育成という観点に変化してきており、それは、「自分の使命を見出して進んで人と社会に仕える」というサーバント・リーダー像にもつながるものです。青山学院では、校友や保護者も含めた「オール青山」体制で、児童や生徒・学生が、自らを知り、自分らしさを発見し、社会に

つながる機会を多彩に提供していくことで、一人ひとりの可能性を広げる取り組みを展開していきます。

【大学】

本学の就職率は、主要私立大学の中でトップクラスに位置しています。1・2 年次の早期支援から、3・4 年次の本格活動期の支援まで一貫したキャリア・サポートを実施し、学生一人ひとりが納得のいく進路決定ができるよう、教職員と OB・OG が一体となり支援と指導を行っています。また本学オリジナルの進路・就職情報サイト、Web Ash（進路就職支援システム）には、他では公開されない情報も含め約 6,000 件の求人情報が掲載されています。2015 年度はインターンシップの充実を図り、下記の取り組みも行っていきます。

・産業界ニーズに対応した教育改善

教育効果が高く、地域の大学が連携することでシナジー効果が得られるインターンシップの開発及び学生と企業のマッチング機会を増やす仕組みの開発・運用を行います。

・単位化されたインターンシップの導入と受け入れ先の開拓

学生が自己の適性や将来設計について考える機会を得て、主体的な職業選択や高い職業意識が図られる取り組みとしてインターンシップの強化を進めています。学生の参加率を向上させ、より着実な取り組みとして定着させるために「国内・国外インターンシップの単位化」を推進し、同時に受け入れ先の開拓を図り、多くの学生がインターンシップを経験することを可能とする体制を整備します。

【女子短期大学】

初年次から対話力を磨く少人数ゼミやライフ・キャリア・デザイン科目をカリキュラムに配置し、メンター教員、学生課職員、常駐キャリアカウンセラーなど、教職員一丸となって卒業後の進路を支援しています。2015 年度は学生課（就職担当）とキャリアサポートルームの役割分担を明確にし、短大における進路・就職支援の体制を確立することを通じて、進路就職支援の基盤を強化します。

【高等部】

総合学園としての一貫教育の利点を生かした大学・短大との連携による「学問入門講座」を実施し、早くから大学の専門分野に特化した学問に接することで、各自の興味・関心を明確にし、学習意欲の向上を図っています。

【中等部】

中等部卒業生の方を中心とした、各界で活躍する方を招いての講演会を実施しています。講演をとおして在校生が現在の自分と将来の自分の姿をイメージし「自分の課題は何か」の気づきと自主性の醸成を促すこの取り組みは、中等部の理念「一人ひとりの生徒の人格を育み、その自己実現を支える」の実践にもつながるものです。

【初等部】

初等部の同窓会であるくすのき会の方をお招きし、5・6 年生を対象に「ようこそセンパイ」を実施しています。児童が興味を持っているアナウンサーやパティシエ等、各界で

ご活躍の同じ初等部での経験を持った先輩達による授業は、児童にとって夢を持つことの大切さや、自分達の持つ可能性に気づくことができる、貴重で魅力的な経験となっています。

ACTION 5　Aoyama Global Passport System（AGPS）

【学院・各設置学校】

21 世紀には学力だけではなく、国際的活動やサービス・ラーニング等の様々な学び、経験を通じた人間教育が問われます。各設置学校では、これまでも正課外の活動など個人の多くの情報を整備し成長支援に役立てていますが、これらを学院共通の成長 e-ポートフォリオとして記録し、系統的に可視化することによって、生徒や学生が自ら課題を確認し、次のステップへ向けて主体的な学びをデザインすることを支援します。学院のすべての学校が一人ひとりの個性を尊重し、共に成長を支援することを通じ、世界で活躍するサーバント・リーダーを系統的に育てていくことを目指し、取り組みを行っていきます。

ACTION 6　IAMSCU*4 リサーチ大学コンソーシアム

【学院・大学】

IAMSCU との関係活動を強化し、メソジスト関係学校の広範囲に亘る国際ネットワークを活用した教育・研究の発展に貢献します。特にリサーチ大学コンソーシアムの設立に注力し、アジアの高等教育をリードするハブ校としてメソジスト高等教育のベストプラクティスの探求、教員の研究活動と FD の促進、加盟校から優秀な卒業生の輩出の支援を目的とした活動を推進します。具体的には、MISEN*5 交換留学ネットワークを通じた学生の交換留学の活発化、共同研究及び教員研修（FD）、文化的、教育的な交換・共同プログラム等を予定しています。

＊4）P. 7 ＊1）を参照

＊5）MISEN：Methodist International Student Exchange Network（メソジスト国際交換留学ネットワーク）

ACTION 7　総合大学院と独創的な研究拠点構築

急速かつ劇的に高度化・複雑化しつつある時代変化に対応できる人材ニーズに応えるため、学部に基礎を置く大学院と専門職大学院との連携による大学院の総合化を実現し、研究体制、研究者養成体制を整えます。

【大学】

・大学院教育検討委員会の設置

大学院教育の更なる充実を図るために検討委員会を設置し、「学術研究の高度化と優れた研究者養成機能の強化」、「高度専門職業人の養成機能の強化」、「生涯教育を通じた社会貢献・社会人の再教育の強化」について全学的レベルで検討します。更に、研究科大学院と専門職大学院が連携して教育プログラムを提供する大学院の総合化を目指し、社会の要請と時代の変化に対応していきます。

・新たな教育研究拠点の形成

他大学との競争力を強め、研究者を養成し、また大学院の活性化や社会的評価を高め、補助金等の外部資金導入のためにも必須となる、研究機能の強化を図ります。

2. その他のアクション

AOYAMA VISION 達成のために掲げられている 3 つのテーマを実現するため、7 つのアクション以外にも、多くのアクション（取り組み）を行っていきます。

(1) 教育力の向上

①教育の質と学習意欲の向上につながる制度・体制の整備

【学院・大学】

教育の高度化に向けた情報環境の整備の一環として、アクティブ・ラーニングの授業事例を記録・公開することにより普及を促進します。アクティブ・ラーニングを用いることが効果的な教育内容を検討し、モデル授業を設計し、そのうちの幾つかの授業を実践して記録していきます。

【大学】

・科目ナンバリングの導入

授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示します。これにより、学生がレベル（学年等）や専門性を勘案して授業科目を履修することが可能となります。

・教育研究基盤システムの開発（全学的図書館システムとラーニングコモンズとしての図書館機能の開発）

これからの教育や研究の基盤となる新しい図書館への刷新で提唱されている 5 つのコンセプト実現のため、基礎となる「学習コレクション」「研究コレクション」の整備、学習支援体制や運営組織等について検討し、青山スタンダード教育機構や各学部・学科等の関連機関と連携して全学的な図書館機能としての運用計画を纏めます。また、それらの計画を現図書館で試行することで、新図書館での円滑な運用開始を図り、具体化した運用イメージは今後の建築設計に反映させていく予定です。

②ICT を活用した教育の充実化

【学院】

各設置学校における ICT を活用した教育の充実化を目指して、情報環境の整備や教育効果等に関して、大学情報メディアセンターと各設置学校が協働して推進します。

【高等部】

電子黒板・タブレット端末等 ICT 機器の導入を開始し、生徒の自己教育力、表現力、創造力育成と、個々の学習ニーズへ対応します。

【中等部】

校舎建て替えでの「教科センター型教室」採用にともない、教科型教室環境での生徒の学力向上を図るため、新しい教材、教育ツールの調査・検討を進めます。

【初等部】

電子黒板による有効的な ICT 活用方法の研究・分析や、普通教室でのタブレット環境実証実験など、より実践的な取り組みを進める予定です。

(2) スチューデント支援

【大学】

学内に活気を与え、学生・校友・教職員の愛校心・帰属意識をもたらすだけでなく、社会へ優秀な選手や人材を輩出することにもつながるスポーツ振興に向け、運動から勉学までの総合的支援を行う、スポーツ振興部局の設置を目指します。

【女子短期大学】

2014 年度より、専任教員が入学から卒業まで学生生活上の諸問題や卒業後の進路等学生生活全般の指導にあたるメンター制度（担任制度）を開始しました。2015 年度は体制を整備し、学生生活全般にわたるよりきめ細かい指導を実現し、支援を強化します。

【初等部】

一時的経済困窮者への学業継続の支援を目的に設立した奨学金給付制度について、募集要項等の準備が整い次第、運用を開始します。また同時に奨学金の原資とするための寄付金の働きかけも行います。

Ⅲ. 青山学院グローバルアカデミックタウン

青山と相模原の 2 つのキャンパスの特性を活かし、地域と密接に交流しながら、世代をつなぎ、人と社会に貢献する研究教育を世界に向けて発信するベース＝「グローバルアカデミックタウン」を創造します。

1. 地域・社会との連携

【大学】

・渋谷区・相模原市等との生涯教育の推進

地域住民を対象とした各種の教育・文化活動の実施により、地域との連帯を強め、本学のサポーターを増やすことにつなげます。単なる講義ではなく、対話型、参加型のセミナーや活動とし、その企画・立案・実施に学部生と大学院生を積極的に取り込むことにより、大学教育としての効果も期待できる取り組みとしていきます。

・自治体や企業等の外部機関との連携事業の検討と推進

自治体や企業等の外部機関と連携することで、教育研究における具体的なニーズや問題点の情報を取得し、学内教育研究組織の一層のレベルアップにつなげます。

【初等部】

青山という立地を活かした初等部ならではのグローカル（Glocal）プログラムを開発・実施します。夏期休暇前の 3 週間を使ってインターナショナルスクールの児童を受け入れ、今までにない形で児童の国際交流・異文化コミュニケーションを図ります。

2. 各設置学校等の連携

【大学・女子短期大学】

・単位互換制度の実施

大学と女子短期大学では、2014 年度より相互交流の促進と学生の教育研究上の必要のため、単位互換制度を実施しています。

・短大との教室の相互利用や教員交流等による資源の有効活用を図ります。

【大学・高等部】

2015 年度からの新たな高大連携プログラムとして、高等部生徒による大学授業の履修を開始します。大学生と一緒に授業を受けることにより、大学の教員が高等部生向けに分かりやすく専門分野を講義する従来から行っている学問入門講座とは違った意味で、高等部生の知的好奇心と学習意欲の向上につながることが期待されます。

【大学・提携校・系属校】

・新たな高大連携教育プログラムとして、提携校との間でサマープログラム等を導入します。

・キリスト教系学校等との連携を積極的に進め、提携校・系属校との連携強化を図ります。

【高等部・中等部】

高等部で行っている長期留学（1 年間）について、高い意欲を持つ中等部出身者が多くいることから、中等部生徒に対するオリエンテーションを実施するなどの連携を行い、中等部出身者の高等部における長期留学の円滑化を図ります。

【中等部・初等部】

日頃の情報共有や初等・中等教育の理解促進のため合同研修会を継続し、連携を強化します。

【初等部・幼稚園】

初等部・幼稚園間の連携強化を図り、園児と児童のよりよい交流や共同体としての情報共有を実現し、幼稚園から初等部へのスムーズな移行を図ります。

Ⅳ. 学院を支える基盤整備

AOYAMA VISION 達成に向けた諸事業を推進し、質の高い教育・研究活動を永続的に行うためには、財務基盤の強化、組織・運営体制の充実、施設設備の整備といった基盤整備が不可欠です。青山学院ではこれらの基盤整備を、計画的に進めていきます。

1. キャンパス再開発

【法人】

・キャンパス再開発 10 年計画の策定

質の高い教育・研究活動推進のため、建築も含めた青山・相模原両キャンパスの整備について、効率的で無駄や無理のない計画を策定し、実施していきます。

・既存施設の整備

キャンパスに集うすべての人の安全・安心を確保するため、東日本大震災を契機に改正された建築基準法に則り、大規模天井の落下対策工事を順次進めていきます。

【女子短期大学】
短大の施設整備見直しを行い、アクティブ・ラーニングに利用可能な教室（多目的室）の設置、教育メディア運用室と情報メディアセンターとの連携事業に資する施設の整備等、短大の教育学習環境を整えるとともに、大学とも連携し学院資源の有効活用につなげます。
【中等部】
中等部校舎の建て替えを実施し、教育学習環境を整備します。単に建築というハード面だけに留まらず、建て替えにより、全学年 8 クラス制と教科センター型教室の導入を実現し、ソフト面においても教育学習環境の充実を図ります。

2. 財政基盤の強化

青山学院では、中長期的な視野に立って財政運営に取り組み、財政の健全化に努めています。2015 年度も、収入面では、学生生徒等納付金の安定的な確保を図るほか、受託研究等外部資金の積極的な導入、競争的補助金の獲得、「青山学院 EVERGREEN 150 募金」をはじめとする寄付金の積極的な受入推進等により帰属収入の増加を図ります。支出面においては、既存の制度や経費の見直しを行い、コスト削減に直結する業務の効率化を図るなど、帰属収支差額（改正学校法人会計基準では基本金組入前当年度収支差額）の拡大に努めます。
【法人】
・財政基盤強化に向けた抜本的改革の推進
少子化や学校間競争の激化といった環境変化の中で、本学院が更なる発展を続けるためには財政基盤の強化は必須です。収入の安定的な確保とそれに見合った支出予算が組み立てられるよう予算編成方法の見直しを行うなど、改革を進めていきます。
・補助金収入の拡大に向けた取り組み
2013 年度に新設された補助金担当部署では、経常費補助金等に係る所管省庁等との連絡窓口となり、学内関連部署の取りまとめ、相談対応にあたるとともに、最新の動向や取り組むべき課題についての情報収集、分析及び提供を行い、2015 年度も引き続き、より積極的で適切な補助金収入拡大のための体制強化に取り組みます。
・「青山学院 EVERGREEN 150 募金」の実施（第 I 期）
2024 年の創立 150 周年に向け AOYAMA VISION の実現を財政面から支えるため、10 年間を 3 期に分け、「青山学院 EVERGREEN 150 募金」を実施していきます。
“オール青山”の精神で広く学院関係者にご支援をお願いするという趣旨をご理解いただけるよう、2015 年度は募金趣意書配付等により募金活動を開始します。
・「青山学院維持協力会」の充実
青山学院が将来にわたり建学の精神にもとづき充実発展していくためには財政基盤の確立が肝要であり、青山学院維持協力会は、そのための基金の充実を目的として 1992 年に設立されました。皆様方から頂いたご寄付は、基金として積み立て、その果実は在校生支援として「青山学院スカラーシップ」に拠出し、奨学金を給付しています。
2015 年度は、ご協力いただく会員の皆様への会員カードの発行、「会員の声」の WEB サイトへの掲載等新たな取り組みを実施し、会員数の増加につなげることで、維持

協力会の更なる充実を図っていきます。

【中等部】

充実した教育の実践に不可欠である新校舎の建築について、後援会、緑窓会（中等部同窓会)、エバーグリーン募金推進本部と協力しながら、中等部が中心となり新校舎建築に特化した募金活動を展開していきます。

3. 組織・運営体制の充実

ガバナンス・コンプライアンスの徹底に向けて抜本的な見直しを行い、組織・運営体制を充実させます。

(1) 広報の強化

【法人】

・広報戦略の再構築

長期的な展望に立った学院全体の広報戦略にもとづいた効果的な広報を展開するため、新たに広報戦略政策の意思決定機関を検討し、オール青山として全学院的に戦略広報を実施していく体制の構築を進めます。また、併せてウェブサイトの維持管理を含めたリニューアルに向けた検討も行います。

・学院・各学校が所有する写真の共有のため、アーカイブ化を推進します。

(2) 事務組織体制の強化

【法人】

効率的かつ実効性のある施策を実施するため、事務組織の改編（第一次）を行います。2015 年度は、キャンパス再配置に伴う事務組織改編の検証結果をふまえ、これまで問題を指摘されながら解決に至っていない組織の問題も含め、その解決に向けた組織変更を行います。また、改編の戦略的意図の理解促進を図るため、情報共有の仕組みを整えるほか、マネジメント層への研修を実施する予定です。

【大学】

教育研究活動に対する職員の研修及び支援・管理能力の強化を図ります。職員として必要な教育改革に関する基礎知識、学生・研究・経営支援にそれぞれ求められる知識やスキル等について、FD 委員会とも連携して研修を計画・実施していきます。

(3) 職員の能力開発支援の推進

【法人】

青山学院では、人事制度の一環として能力開発支援制度を定め、職員の業務遂行の円滑化と効率化を図るため、必要な知識や技能の修得を計画的に推進しています。

・1ヶ月に及ぶ新人研修をはじめ、配属部署の先輩からトレーナーを選任しての On the job Training、配属部署とは異なる先輩によるメンター制度、管理職研修、自己啓発支援プログラム等多彩なプログラムを継続します。

・2014 年度の重点目標であった「職員のグローバル化」に向けたプログラムを継続し、海外大学への職員派遣や受け入れ等をとおして、職員力を強化します。

・サーバント・リーダーについての理解を深め、自らがサーバント・リーダーとして

ヴィジョンの実現に貢献できる職員の育成に向け、プログラムを検討・実施します。

(4) 災害対策の強化

【法人】

東日本大震災の際、約 9,000 人の帰宅困難者を受け入れた本学院では、その経験をふまえ一層の災害対策強化に取り組んでいます。2015 年度は、「緊急地震速報」をはじめ、災害時の必要情報を全域へスムーズかつ正確に伝えるための情報伝達体制（環境）を整備し、安全面の更なる強化を図ります。

4. 内部質保証

【大学】

新たに構築された全学的な内部質保証システムでは､各部局の自己点検･評価活動を PDCA サイクルに沿って継続的・恒常的に機能させることにより、教育・研究をはじめとした大学の諸活動の質を更に向上させる体制を整えます。

Ⅴ. その他

【法人】

『青山学院 150 年史』の編纂を行います。年史の発行は、過去に学び現状を認識することで未来の構築につなげるとともに、学院のアイデンティティーを確認し、先人たちの努力を顕彰する意味でも重要です。創立 150 周年での発行に向け、取り組みを進めます。

【女子短期大学】

総合文化研究所創立 25 周年の記念事業として、『青山学院女子短期大学 65 年史（通史編)』を 2016 年 11 月 16 日に発行します。65 年史編纂委員会が中心となって、これまでに研究所で行われてきた研究プロジェクトの成果を集約し、2015 年度中に原稿を準備します。

【初等部】

2017 年度に、初等部は創立 80 周年を迎えます。『青山学院初等部 80 年史』（仮称）の編纂スケジュール策定、式典を始めとする周年行事の企画立案など、2015 年度は創立 80 周年記念事業実施に向けた取り組みを開始します。

〈補足事項〉

P.4 から P.16 に掲載されている法人執行部及び本部事務部署が行う事業計画については、「教育・研究・学術」に係る計画を【学院】、「経営・管理」に係る計画を【法人】と表記しています。

地の塩、世の光

The Salt of the Earth, The Light of the World

【青山学院スクール・モットー】

学校法人 青山学院　2015年度事業計画書

（問合わせ先）本部 総合企画部 03(3409)6384 内線 11338

※学院HPからもPDF形式にてご覧いただけます

ホーム ＞ 青山学院の基本情報 ＞ 青山学院のデータ ＞ 財務状況 事業計画書・事業報告書

2015年3月26日 理事会承認　(2015年4月発行)